

製品名: ERK 8 (リン酸化 Thr175/Y177) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04636**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK15
別名	MAPK15; ERK7; ERK8; Mitogen-activated protein kinase 15; MAP kinase 15; MAPK 15; Extracellular signal-regulated kinase 7; ERK-7; Extracellular signal-regulated kinase 8; ERK-8
遺伝子 ID	225689.0
SwissProt ID	Q8TD08
免疫原	抗血清は、ヒト ERK8 の Thr175 と Tyr177 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

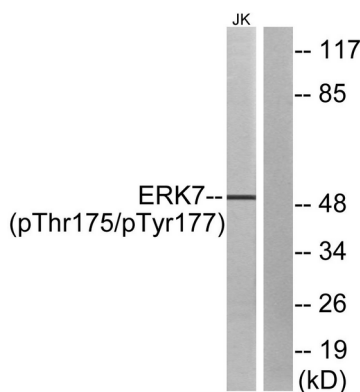
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,ドメイン: N末端領域 (1-20) は、ユビキチン化とプロテオソームによるさらなる分解に必要な最小限の領域です。 ,ドメイン: TXY モチーフには、MAP キナーゼを活性化するスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。 ,酵素制御: スレオニンおよびチロシンのリン酸化によって活性化されます。 DUSP1 などの二重特異性ホスファターゼによって阻害されます。 ,機能: in vitro で、MBP をリン酸化します。 ,PTM: 酵素を活性化する Thr-175 および Tyr-177 が二重にリン酸化されます。 in vitro では、スレオニンおよびチロシン残基が自己リン酸化されます。 ,PTM: ユビキチン化されます。 ユビキチン化により、キナーゼ活性の厳密な制御と迅速なターンオーバーが可能になります。 SCF E3 リガーゼによってユビキチン化される可能性があります。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 MAP キナーゼサブファミリー。 ,類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,サブユニット: CSK/c-Src、ABL1、RET、および TGFβ111 と相互作用します。 ,組織特異性: 広く発現しており、肺と腎臓で最大になります。 ,触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,ドメイン: N末端領域 (1-20) は、ユビキチン化とプロテオソームによるさらなる分解に必要な最小限の領域です。 ,ドメイン: TXY モチーフには、リン酸化によって MAP キナーゼが活性化されるスレオニンとチロシン残基が含まれています。 ,酵素調節: スレオニンとチロシンのリン酸化によって活性化されます。 DUSP1 などの二重特異性ホスファターゼによって阻害されます。 ,機能: in vitro で MBP をリン酸化します。 ,PTM: Thr-175 と Tyr-177 が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。 in vitro ではスレオニンとチロシン残基が自己リン酸化されます。 ,PTM: ユビキチン化されます。 ユビキチン化により、キナーゼ活性の厳密な制御と迅速なターンオーバーが可能になると考えられます。 SCF E3 リガーゼによってユビキチン化される可能性があります。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 MAP キナーゼサブファミリー。 ,類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,サブユニット: CSK/c-Src、ABL1、RET、TGFβ111 と相互作用します。 ,組織特異性: 広く発現しており、肺と腎臓で最大発現を示します。 ,

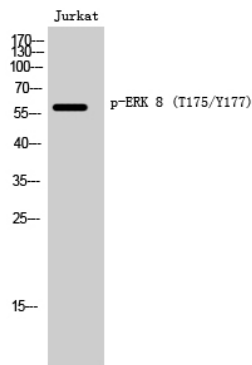
研究分野

Jak-STAT シグナル伝達経路

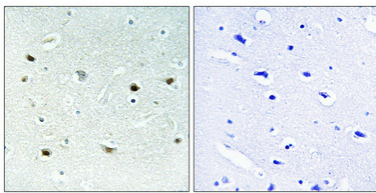
画像データ



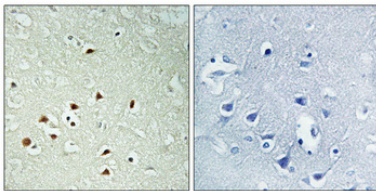
ERK8 (リン酸化 Thr175+Tyr177) 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-ERK 8 (T175/Y177) ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウエスタンブロット解析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。